

## 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

### 1. 学校概要

学校名 一宮市立葉栗小学校 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫<sup>※注 1</sup>

☐ 中学校 ☐ 中高一貫<sup>※注 2</sup> ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他 (例: 小中高一貫 )

※注 1 義務教育学校を含む ※注 2 中等教育学校を含む

所在地 〒491-0132

愛知県一宮市大毛字南出 30 番地

E-mail haguri-e@city.ichinomiya.aichi.jp

Website http://www2.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=2310133

児童数 男子        名 女子        名 合計        名

児童の年齢 6 歳 ~ 12 歳

### 2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

### 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、「人権意識の高揚と伝統文化の継承」を活動テーマとして、ESD を他人との関わりや社会との関わりと捉え、ESD の実践を通して「関わり」や「つながり」を意識した取り組みを考えることができる力の育成を目標とした。

具体的には、特別支援学校との交流、地域にある島文楽の実演を柱に、①人権に係わる活動、②伝統文化に係わる活動を行った。

#### ①人権に係わる活動

愛知県立一宮特別支援学校と交流活動を行っている。この活動は、相手を尊重し相手の気持ちを理解しようとする心を育むことを目標としている。また、特別な支援を必要とする児童に対する思いやりの心を育てるとともに、真に特別な支援を必要とする児童のためになる励ましや援助のあり方を考えることができるようにする児童を育てたいと考えている。

内容は、年 2 回の人的交流と年 1 回の作品交流を実施している。人的交流では、相手ができることを考え、趣向を凝らした取り組みが行われた。さらに 6 年生では、特別支援学校の児童とペアになり、より密接なかかわりをもって取り組んだ。交流が終わった後には、次回の再会を約束している姿が見

られた。作品交流では、テーマにそって特別支援学校の児童が作った土台となる作品に、本校の児童が手を加え一つの作品を作り上げた。土台を壊さないように、テーマを崩さないようにどのようなことができるかを考えながら作品を完成させていた。

この交流は継続して実施されている。小学1年で出会った特別支援学校の児童と6年間関わり、学年が上がるにつれ、関わり方を深く考えることができるようになっていく。継続した取り組みが奏功している実践となっている。

## ② 伝統文化に係わる活動

本校区には、「島文楽」という伝統芸能が伝承されている。地域の保存会の方々が、この伝統芸能を児童に知ってもらおうと、本校で鑑賞会を実施してきた。鑑賞会では、演じる文楽の内容を解説していただき、少しでも児童に分かるようにしていただいた。鑑賞会が終わった後には、人形の扱い方の講習や人形を使って実演する機会をいただいた。

今年度は鑑賞会だけではなく、6年生の児童が「島文楽」を実演する機会を得た。総合的な学習の時間を使って「文楽」の調べ学習をし、保存会の方から人形の操り方や拍子木の打ち方、口上などを教えていただいて練習に取り組んだ。そして学習発表会で、児童自身の手による「島文楽」の実演を披露した。

地域にある「島文楽」に興味を持ち、大切にしていかなければならないという気持ちを持つ児童が多くあらわれた。中には保存会に所属する児童もいた。鑑賞するだけでなく、実演することが大切であることを実感した。



① の写真 (キャプション)



② の写真 (キャプション)

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

特になし
------

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

総合的な学習の時間を中心にして、道徳や特別活動などの内容を活動が実践されるものに近いものにし、より実践が深まるようにしている。

また単元構成を、「つかむ」段階→「学習する」段階→「実践する」段階→「まとめ、振り返る」段階に分け、それぞれの段階での到達目標を定めている。

各学年の発達段階に応じ、取り組む内容を考えて実践しているが、マンネリ化しないように、PDCAサイクルを意識するようにしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

各活動を継続的に取り組めるように、年間行事の中に必ず取り込んでいく。それぞれの活動が活発になるように、教務主任を中心とした組織づくりをし、意識化を図っている。活動がやりっ放しにならないように、PDCAサイクルを意識し、振り返りや見直し、改善点の発掘を行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

ユネスコスクールとしての学校活動の評価は実施していない。学校活動全体に対しての評価のみである。その中で、教員については具体的な取り組みについて評価を行っている。それぞれの活動が児童にとって効果が得られるという評価が多くあったが、ユネスコスクールと関わりがあるという結果は得られなかった。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

推進拠点としての発信をしていない。各活動に対して、児童の様子を本校の Web Site で発信したり、保護者に通信(紙面)で報告したりしている。

Web Site で発信することにより、地域の方々も目にすることができ、称賛の言葉をいただいたこともある。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

島文楽保存会との関わりのほかに、単学年の行事ではあるが「昔遊びの会」(1年)では老人会の方々、「ヤゴ救出作戦」(4年)では地域の方を招いて指導を受け、地域との関係づくりに取り組んでいる。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

交流・ネットワーク形成をしていない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

教員だけの知識や技能では取り組めないような行事が実現し、児童により深い学びと多様性のある活動を保証することができた。また、指導される地域の方の熱意から教員が学ぶことも多かった。

- （3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

足元を見て身近なことから継続していくことの大切さを学んだ。今一度、学校教育を、対象となる活動の再構築、地域人材の開拓と整理、児童の学びの面からの再構築という点から、見直しをしていきたい。